

湯原温泉露天風呂「砂噴き湯」湯浴み口上

とぉざい、とぉうざい～。本日は、砂噴き湯へのご来湯ありがとうございます。我らは、湯原温泉の温泉指南役にございまつ。この砂噴き湯は、古代の湯治の姿をとどめる場所にて我らが守り続ける秘湯にございまつれば、昨今の観光用の露天風呂とは訳が違います。故に、ご来湯の皆さまには、我らが掟、法度に従い湯浴みいただきまつる～。

一つ 裸にて湯浴みなされよ

着衣の湯浴みは、お湯が汚れます。水着は御法度にて候。



二つ 下を清めよ

湯桶なき場合は、手ぬぐいにて結構。十分に湯掛けし躰を湯にならし下をお清めくださいませ。



三つ 湯尻よりお入れよ

入湯は、湯尻から身を清めながら、じわり、じわり、じわりと上にお上がり下さいませ～。さすれば上湯にては顔もジャブジャブと洗えます。仕上げは、長寿の湯にてなさりませ～。

四つ 静かに拝め

病有る人は完治を願い、元気なり人はその身に感謝し静かに浸かりなさりませ。

五つ 盗人にご用心

なにぶんにては諸国に名だたるお湯なれば、不埒なる人もこしまして候。



六つ ご飲酒は、御法度にて候

お身体に障りますに、加えて足下おぼつき怪我のもとにて候。

七つ、シャボンは、ごえんりよくださいませ～

アルカリの強いお湯にてございまつれば、石鹸は無用にて候。

ここにご参集の皆さまは、まさに裸のお付き合いなれば、和気藹々にてお過ごし下されませ～。ただ～し湯当たりなされぬよう～、ほどほどと思し召せ。初日、二日においては、日に一度、三日辺りになれば湯が身体になじみますれば～朝夕の二度に。三度以上は、お命をお縮め参らせ候。ゆめゆめ、湯巡りなどと浅はかは、成されぬように。湯浴み中の皆さまには、御身お心をお癒し頂き、この後も再三再四のご来湯の程、隔から隔まで、ずずい～と、御願ひ上げたて～まつります～。

湯原温泉

温泉の専門知識も持って正しい入浴法を観光客に教たり
歴史や周辺観光地のガイドもできる温泉プロフェッショナル

温泉指南役



昭和55年、旅行作家の野口冬人氏が行司となって露天風呂番付で湯原温泉が西の横綱となる。

その理由は

- 1 自然の温泉であること
- 2 住民により管理されていること
- 3 無料で年間通じて利用できること
- 4 雄大な景色

とわれています(行司役:野口冬人氏より)

砂湯は湯原温泉の原風景です。古代より湧き出でる源泉を岩で囲んだ自然そのものの露天風呂。源泉は、その湯場の底から砂を噴きながら湧いています。これが砂噴き湯(砂湯)と呼ばれる所以です。砂湯は住民の生活の湯場として地域の人たちにより管理されてきました。自然に湧き出る温泉であり湯治場として来訪者にも無料で開放されています。

虎の巻